

きらめき



2023.01

MUNICIPAL TSURUGA HOSPITAL MAGAZINE

INDEX

- ・[特集] 皮膚科と形成外科
- ・「ノロウイルス」を予防
- ・地域医療機関のご紹介
- ・新しい電子カルテを導入

「特集」皮膚科と形成外科

性別問わず

相談しやすい診療科

全身を覆う皮膚は、年齢や性別を問わず悩みを抱える方が増加しています。市立敦賀病院の皮膚科では、その幅広い需要に応えるべく、男女1名ずつの常勤医を配置し、相談しやすい診療科を目指しています。

【皮膚科】

皮膚科の特徴と診療領域

ー皮膚科では、どのような診療をおこなっていますか

全身を覆う皮膚は人体で最大の臓器ともいわれており、日本人の平均で約1.6㎡(およそタタミ1畳分)の面積を占めています。

皮膚は体外からの刺激や微生物から体を守る働きをしている一方で、内臓の異常が皮膚に現れることもありま

す。皮膚科はその過程で出現した皮膚表面のあらゆる症状を扱い、ある意味でゲートキーパーのような存在になっています。

薬で治療することは他科と同様ですが、当科としての特徴は内服薬と同様に外用薬にも重きを置きその使い方に對しても指導をする事です。

また、皮膚のできものを主訴に受診される患者さんには手術を、シミやアザで受診される患者さんにはレーザーを用いて治療する事も多いです。内臓由来が疑わしいときは最適な他科に診療を依頼します。そのため、他科の先

生や看護師、コメディカルと連携することも多いのが特徴です。

ーどのような患者さんが多いですか

アトピー性皮膚炎などの湿疹群、带状疱疹・蜂窩織炎といった感染症、熱傷など体表に受けた外傷、全身性強皮症などの膠原病、高齢化で増加する皮膚がんなど、患者さんは多岐にわたります。

また、当科の診療領域は意外と広く、実際は口の中や髪の毛、爪、褥瘡、プライベートパーツに至るまで様々に対応します。また港湾都市敦賀ならではの

のケガやトラブル(釣り針やウニの棘が刺さった、クラゲに刺される、オコゼを踏んだ等)で受診される患者さんもかなり多いです。

患者さんの数自体は診療科の中でもトップクラスですが、特に夏・冬に集中しやすい傾向があります。

診療においては、「時間軸を意識した説明」を心がけています。診察で私達が診ているのは、あくまで現在の患者さんの皮膚の状態です。そこから、何が原因で皮膚症状が起きて(過去)、どういう経過をたどって今の状態となったか(現在)という情報を引き出して整理





し、今後はどうなっていく見込みであるか、こういった検査が必要で、どういった治療で良くなるか(未来)を伝えます。この時間軸の意識が、正確な診断や患者さんの不安軽減につながるものと考えています。

日本皮膚科学会の

生物学的製剤承認施設

—今後、行っていききたい治療はありませんか

近年、アトピー性皮膚炎や乾癬、円形脱毛症で、外用薬などの従来の治療だけではコントロールが難しい患者さんに、生物学的製剤やJAK阻害剤という強力な治療が保険適用となりました。

当院も今年度から日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設の認定を受け、これまで嶺北の基幹型病院へ足を運んでいらした患者さんに対して、当院での導入や維持が可能となり、重症の患者さんにも対応できるようになりました。

また、悪性腫瘍における分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬をはじめ

め、昨今では新規治療薬による特殊な皮膚障害への対応の機会も多いです。いかに皮膚症状を軽減あるいは予防して、本来の治療を滞りなく行えるようにするかが腕の見せ所です。

—2名体制となり、市立敦賀病院はどのような強みがありますか。

今年度から当院の皮膚科医師が2人体制になり男女ともに常勤医がいるため、各性別ならではの悩みやプライベートゾーンの診察にも細かく対応できるのではないかと思いますので、問診の時点で相談していただきたいと思えます。

また、地域の中核病院として幅広い分野を担う当院では、他科の診療も活発です。皮膚科だけでは解決しない疾患の場合は他科の先生方にもご協力いただけますし、当院でもできる治療に限られてしまう場合は主に嶺北の基幹型病院と連携していきます。

病院を受診される方は様々なお悩みを抱えて受診されますが、患者さん個々の状態や要望、社会背景を考慮し必要な検査と治療を的確に提案して一緒にベストな選択をしていければと思います。



【形成外科】

形成外科の特徴と診療領域

— 形成外科では、どのような診療をおこなっていますか

他の診療科と比べて分かりにくいのですが、「一言で言いますと、「体の表面を治療する」ということになりました。

体の表面に生じる様々な変形・欠損・異常を治療します。扱う疾患としては、小さいと、きずや皮膚のできもの、まぶたの下垂や逆まつ毛、生まれつきの変形や異常、大きくなると、けがやガンにより生じた欠損や変形に対応する移植術や再建術など、幅広く対応しております。いずれの場合にも外見上の問題を改善させることを目的としています。

週1回診療をご利用下さい

— 診療について教えてください

形成外科の診療では、手術による治療がメインとなります。月曜日の午後に予約制で手術を行っています。現段

階では週1回の診療ですので、安全性を考慮して、通院の局所麻酔の手術のみの対応としています。入院のうえ全身麻酔手術が必要な場合は、ご足労ですが、福井大学医学部附属病院まで来ていただいて手術を行っています。手術が終わった後の診療は再び市立敦賀病院で行っています。

敦賀地区の形成外科診療を充実させるように努めておりますので、困ったことがありましたら遠慮なく診察に来てください。お待ちしております。

形成外科で扱う疾患

【外傷】

熱傷、切創、擦過傷、挫滅創、皮膚欠損創、顔面外傷、顔面骨折、四肢外傷、傷跡、ケロイド

【皮膚腫瘍】

皮膚良性腫瘍、母斑、血管腫、軟部腫瘍、皮膚悪性腫瘍

【先天奇形】

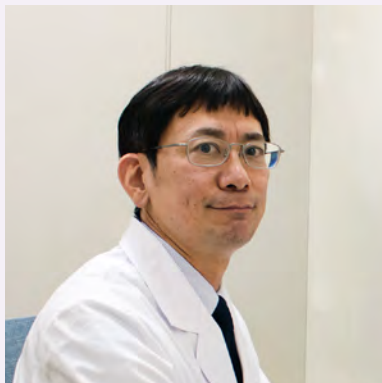
多指症、合指症、臍突出、口唇裂、口蓋裂、副耳、耳瘻管、耳変形、小耳症

【その他】

眼瞼下垂、睫毛内反、顔面神経麻痺、乳癌術後変形、陥没乳頭、腋臭症、皮膚潰瘍、糖尿病性壊疽、褥瘡、リンパ浮腫、静脈瘤、陥入爪

Greeting

医師からご挨拶



福井大学医学部附属病院
形成外科 准教授
中井 國博
kunihiro nakai

月曜日午前の形成外科の診療を担当している中井です。月曜日以外は福井大学医学部附属病院で形成外科診療に従事しています。私が市立敦賀病院で担当するまでは敦賀地区の基幹となる病院で形成外科診療がなされていなかったのですが、市立敦賀病院よりお声をかけていただきましてようやく形成外科診療を開始することができました。お声をかけていただき本当にありがとうございます。敦賀地区の形成外科診療が普及するように努めておりますのでご支援をどうぞよろしく願いいたします。



皮膚科 医師
岡村 咲由莉
sayuri okamura

幼少期を福井県鯖江市で過ごし、福井県立武生高等学校、福井大学医学部を卒業しました。大学卒業後は福井県済生会病院、福井大学医学部附属病院を経て2021年度から市立敦賀病院に赴任しています。昨年度は常勤医師が私のみであり、また敦賀市にこれまで馴染みがなく最初は不安が大きかったですが皆様のおかげで診療に励むことができます。

大学時代に軽音部に所属しドラムを担当した事がきっかけで音楽に興味をもち、現在でも休日は自宅で好きな音楽を聴きお気に入りの観葉植物を育てながら過ごすことが多いです。



皮膚科 医長
笠松 宏至
hiroyuki kasamatsu

坂井市出身で、福井大学医学部を卒業し、これまで県内病院で勤務してきました。令和4年4月から約3年ぶりに敦賀市へ赴任しました。

皮膚科が扱う疾患数は1000以上とも言われています。皮膚科にいくと「見ただけでわかる」というイメージがあるかもしれませんが、これは特殊な能力があるわけではありません。敢えて表現するならば、内科医が検査データを読む、あるいは整形外科医がレントゲンを見る、ような感覚で皮膚症状を「見て」います。膨大な疾患の中から、患者さんが最短距離で正解に辿り着くサポートをする、というのが皮膚科の専門性であり魅力です。

地域医療機関のご紹介

川上医院



基本情報

住 所 福井県敦賀市松原町1-39
ホームページ <https://kawakami-clinic.jp>
診療科目 内科、消化器内科、糖尿病内科
脂質代謝内科、形成外科

COMMENT

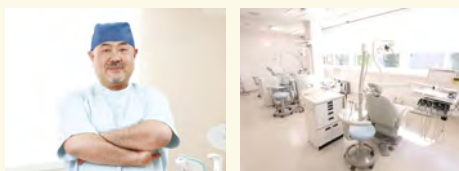
医院からのコメント

当院は敦賀市において、診療を始めて70年になります。現在2代目で、3代目が現在院長修行中です。診療科は内科(消化器内科、糖尿病内科、脂質代謝内科)形成外科です。消化器では特に胃癌、大腸癌、膵、胆管系の癌の早期発見を目標にしています。又、どこの診療科に受診してよいか分からない方々の相談に応えることも、大事な役目と考えています。

どんな相談でも、その相談に適切にお応えできればよいのですが、現実はまだまだで、日々精進しているところです。(詳しくはホームページをご覧ください)

市立病院には大変お世話になっております。紹介は全ての科になりますが、当院の目標から特に外科、消化器内科、放射線科が多くなっています。また循環器内科、泌尿器科にも多くの方がお世話になっております。先生方には、お忙しい中大変参考になる情報提供を頂き、勉強になっております。また他の全てのスタッフの皆様にもご面倒をおかけしていますが、丁寧に対応して頂き、感謝しています。今後とも宜しくお願いいたします。貴院が、市民の為に益々活躍されることを願っています。

いもじ歯科クリニック



基本情報

住 所 福井県敦賀市鋳物師町16-4
ホームページ <https://www.imojishika.com>
診療科目 歯科、矯正歯科

COMMENT

医院からのコメント

当院は時代の先駆けとなる「自由診療」を20年以上前から取り入れ、数多くの症例実績を積み上げている歯科医院です。

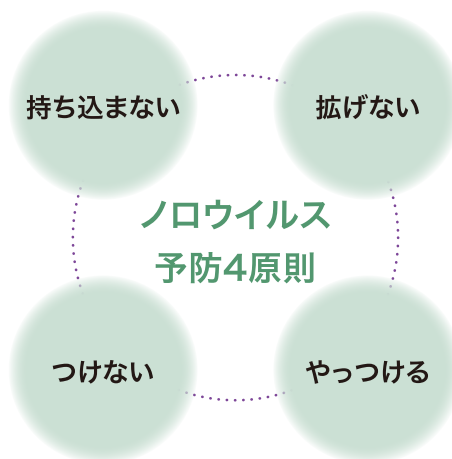
カウンセリングでは「歯を抜かずに治療したい」「痛くない入れ歯にしたい」など、歯のお悩みを徹底的に聞き、患者様にご納得いただける丁寧な説明と最適な治療方法をご提案します。当院が自由診療を採用しているのは「ずっと口の中にあるものだからこそ、納得できる安心・安全なものを」と考えているからです。保険診療内では費用は安く済みますが経年劣化や素材による体調不良など様々な問題があり、保険診療に限界を感じているため自由診療を選択肢に含めています。

噛むことは身体にとって大切なことであり、認知症や寝たきりを防げるとも言われています。当院では歯科での若返り美容を考えた見た目の美しさと機能性を重視した「セラミックの被せ物」「やわらか入れ歯」などの豊富な治療方法を取り扱っています。その中で医師の独断で治療法を決定するのではなく、「沢山ある選択肢から最適な一つ」をご提示できる歯科医院でありたいと考えています。

冬に流行しやすい 「ノロウイルス」を予防しよう

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は一年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。ノロウイルスは手指や食品などを介して経口感染し、ヒトの腸管で増殖します。原因食品として、水やノロウイルスに汚染された食品、特に牡蠣を含む二枚貝が多く報告されています。ノロウイルス感染者が用を足した後に手洗いが不十分なまま料理をすると、食品がウイルスに汚染されます。その食品を食べることにより、感染が引き起こされるおそれがあります。さらにノロウイルス感染者の便や吐物に接触したりすることにより二次感染を起こすことがあります。

潜伏期間は24～48時間で、おもな症状としては吐き気、嘔吐、下痢、腹痛であり、これらの症状が1～2日続きます。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。



予防のポイント

✓十分に加熱する

牡蠣などの二枚貝は、「生食用」と表示されたもののみ生で食べることができます。「加熱調理用」と表示されているものは、中心部の温度が85℃以上の状態を90秒以上保持するまで十分に加熱する必要があります。

✓調理器具を衛生的に扱う

牡蠣などの二枚貝を調理する際にウイルスが調理器具に付くことがあります。まな板、包丁、ふきん等の器具は使用後すぐに洗浄・消毒し、清潔に保ちましょう。熱湯での加熱による消毒や塩素系漂白剤・消毒剤を使用した消毒が有効です。

✓手洗いを実行する

調理前や食事前など食品を取り扱う前にはよく手を洗いましょう。またトイレの後やおむつ交換等を行った後（手袋をして直接触れないようにしている場合も含む）にも手洗いを行いましょう。

✓吐いたものや便の処理に注意する

ノロウイルスに感染した人の吐物や便には大量のウイルスが排出されます。処理の際には使い捨て手袋やマスクを着用し、塩素系漂白剤で消毒しましょう。乾燥する前に処理するのが重要なポイントです。

新しい電子カルテを 導入します

市立敦賀病院では2023年2月に新しい電子カルテを導入することになりました。病棟、外来から救急に至るまで新しい電子カルテのシステムに変更となります。

電子カルテは従来医師や看護師が紙カルテで記入していた診療記録をコンピュータで記録管理できるシステムです。現在は診療記録の他にも薬剤の処方や検査の予約、検査結果の確認など電子カルテで行うことがたくさんあります。また、複数の部署で情報を共有するためにも電子カルテは役立っています。

病院の電子カルテシステムには、基幹となるシステムに放射線システムや検体検査システム、給食管理システム、

リハビリシステム、ドック健診システムなどそれぞれ専門のシステムが接続されており、これらをうまく連携させて患者さんの診療を行っています。今回の電子カルテシステムの変更では、こういった既存の専門システムも新しくなり、さらに感染管理システムや麻酔記録システムも新規導入されるため、これまで以上に正確かつ迅速に情報管理ができる予定です。また、病棟ではモバイル端末を電子カルテに接続して記録を音声で入力したり、写真を撮って電子カルテに取り込むなどの最先端技術を活用します。

新しい電子カルテを導入し、これからも地域の医療を支える病院でありたいと考えています。

電子カルテの3原則

電子カルテは法的に保存が必要な記録をするため、真正性（作成された記録が虚偽のものではないことが保証されていること）、見読性（必要なタイミングいつでもデータをはっきり読め、印刷できる状態にしておくこと）、保存性（記録されたデータが保存すべき期間中は復元できる状態で品質を保ちつつ保存しておくこと）の3つの基準が満たされている必要があります。



編集 後記

新年あけましておめでとうございます。きらめき51号を最後まで読んでいただきありがとうございます。

今回から地域医療機関のご紹介についての記事を掲載させていただきましたことになりました。取材にご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後も「きらめき」を通じて皆様に分かりやすく情報を伝えしていきたいと考えております。本年も引き続き広報誌「きらめき」をよろしくお願いたします。



きらめき 市立敦賀病院 広報誌

発行：市立敦賀病院 / 企画・編集：市立敦賀病院広報委員会
©2023 市立敦賀病院
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。



市立敦賀病院
公式ホームページ
<http://tsuruga-hp.jp>